

## 子どもケアセンターに想う…



名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部  
子どもケア学科 学部長 末松 弘行先生

末松先生は、この子どもケアセンターのセンター長です。周りの人にいつも笑顔で接して下さる、とても優しい先生です。

子どもケアセンターの主役はこどもさんです。お母さんもいます。しかし、うちのセンターはヒューマンケア学部で敷設されています。ですから、学生さんも主役です。

学生さんが子どもさんにたいしている時の表情が、とってもいいです。

イベントの際には、幼児保育専攻の人ばかりでなく、子どもケア専攻の人たちも参加しています。これらの人たちは、子どもの表情から気持ちを読み取るテストがうまくなっているようです。大いに参加して、体験を深めていってほしいと思います。

## 調査を終えて…

担当 ちえ

どうして子どもとお母さんが一緒に遊ぶ遊んで必要なんだろう？そんな疑問から、今回は子どもケアセンターで遊びが提供されているサロンに密着して、調査してきました。

サロンに参加していただいたお母さんたちから「普段家ではなかなかできない遊びと一緒にすることで、子どもの新しい一面を発見できました。」など、通信に載せきれないほど多くの声を伺うことができました。

また、提供した学生も、自分たちが活動したことによって親子のこやかな姿を見られたことが、自信につながったようでした。参加した学生は、ケアセンターで良い経験ができたのだと思います。

私たち調査隊は、多くの学生にこんな素敵な経験ができるケアセンターのことをこれからも広めていきたいです。

第8号担当 **メンバー紹介**  
たんぽぽ調査隊



名古屋学芸大学  
NAGOYA GAKUIN UNIVERSITY OF ARTS AND SCIENCES

ヒューマンケア学部 子どもケアセンター  
〒470-0196 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57  
Tel.0561-75-2225 Fax.0561-75-2226 URL: http://www.nuas.ac.jp/

ゆきな ゆか たまき りさ



まりこ ゆみこ ちえ



名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部の学生がつづる…

## ひだまり通信

第8号

発行：平成23年9月 発行者：名古屋学芸大学ヒューマンケア学部 子どもケアセンター

☆密着！わくわく親子遊びサロン☆  
『保育者の願いが、地域の親子や学生たちに届くまでのプロセスを考えよう』

名古屋学芸大学の子どもケアセンターでは、日進市と大学が連携して、さまざまな事業を行なっています。

今回私たちは、その中の一つ、「わくわく親子遊びサロン」に注目しました。

この事業は、各年齢の子どもが大好きな親子のふれ合い遊びを、保育者や学生が紹介しています。

保育者は、遊びの提供を通して、地域の親子や学生たちに、どのような願いを届けたいかと思って企画し準備しているのでしょうか。

また、その願いは、実際に、親子や学生たちに届いているのでしょうか。

私たちは、企画（願い）↓準備↓当日までのプロセスに密着して、保育者の願いが地域の親子や学生たちに届くために大切にしたいことを調査してみました。



### 子どもケアセンターより ごあいさつ



子どもケアセンター  
坂 鏡子先生

坂先生は、保育における実習指導などを担当し、特に子育て支援の面でもたくさん教わることが多いです。また経験が豊富であり、学生からもとても信頼されている先生です。

### 実践は、やりっぱなしではダメ！

私たちの実践は、こんなことを子どもたちに届けたいという「願い」からスタートします。その願いは、未来を生きる子どもたちが心身ともに豊かに育ってほしいという願いです。

そして、その願いが着実に届くように、保育者は環境を整え、子どもたちは、その環境に積極的に働きかけ、生きる力を獲得していきます。

まずは、活動を通して、どんな「願い」を届けたいのか、それをはっきりさせる必要があります。しかし、保育者の一方的な願いに終止したら、自己満足になってしまいます。

『実践は、やりっぱなしはダメ！』子どもたちの様子をしっかりとらえて、私たちの願いがどのように子どもたちに届いたのかを評価し、常に学びをもとに、より確かな実践をつみかさねていく姿勢をもちたいものです。

# 企画 (願い)



その思いがどんな風にサロンの中に届いているかな？実際に見てみよう！

## ～サロンへの思いを坂先生に聞いてみました～

子育て中の方へ



子どもの発達を促すふれあい方法の幅を広げることが、ママたちの子育ての自信に！

今は、子どもたちとふれあう体験が少ないままに親になり、どのように子どもと遊んであげたらよいかかわからず、子育てに葛藤している保護者が多い現状にあります。わくわく親子遊びサロンでは、保育士が子どもの年齢にあったふれあい遊びを提供します。保護者の方が、わが子の発達段階を知り、こんな風にかかわればいいんだと考えられたらよいと思います。そして、お母さん自身が、子どもとの関わり方や遊び方がわかってくると、それが自信になり、子育てに対して前向きになれるのだと思います。

### 子ども達と楽しさを共有するリズム & 間合いを学ぶ

「こんな風にやろう」と頭だけで考えていても、実際に子どもたちを前に遊びを提供すると、なかなか上手く出来ません。

きっとそれは、子ども達は小さくても感情をもって、自分の意思で生きているからだだと思います。

子どもと楽しさを共有する遊びのリズムや間合いは、実践を通さないと身につかないと思います。だからこそ、学生たちが、子どもとのふれあい体験をたくさん積んでほしいと思います。

学生たちへ



### 子育て中の保護者の思いにふれる

わくわく親子遊びサロンにきて、色々な子どもや親同士が出会う。楽しい遊びを通して、子どもと保護者の関係が広がる。

お母さんの声を聞き、懸命に子育てをしているお母さん達の願いをかなえられるように寄り添い支えいく力を身につけていく。

お母さん方が、家でもやってみたいと思えるような遊びを提供できるようになってほしいと思います。

今、保育者の役割として求められている子育て支援とは何をどのように支援することなのか、一緒に考えてみましょう。



# サロンの密着取材！

～6月3日～

0歳児、1歳児のみんな集まれ！



# 実践 当日



## ●保育者が届けたい今日のねらい●

- ★親子で手作りおもちゃ（紙皿のモビール）を作って、一緒に遊ぶ楽しさを味わってほしい。
- ★子どもが、お母さんに作ってもらったおもちゃに興味を持つ様子を見て、お母さんが、子どもの興味に寄り添ったり、共感したり、子どもの目線にたった声かけをすることに喜びをもってほしい。

さあ～ねらいは届いているかな？  
みんなで一緒に見てみましょう！！

### ○子どもの顔を覗き込み笑いあってる！

最初は緊張していた様子のお母さんと子ども達。でも、サロンの楽しい遊びが始まると自然と笑顔になっていました。「お子さんどんな表情してますか？」保育士の投げかけに、子どもの顔を覗き込んで楽しそうに笑いあう親子の姿が印象的だったよ。



### ○びよ～んと伸びる！不思議だね

紙皿のモビール作りでは、お母さんと一緒にカラフルなシールを貼っていきます。完成したモビールの動きに子ども達は興味津々！



### ○いっぱいお喋り、楽しいね

初めは子どもへの声のかけ方がわからない様子だったお母さん達。でも、最後に行われた絵本の読み聞かせでは、お母さんが子どもへ自然に話しかけている姿が見えました。会話は出来なくても、お母さんが子どもに沢山話しかけるのは、とっても大切なことなんだね。



# 準備

## ～サロン開催までの準備その①～

どんな願いを込めながら準備していくのかな？  
学生や保育者の準備の様子に密着しました。

### ①申し込みの受付



受け付け開始の時間から、電話がなりっぱなし。保育士さんが、丁寧に受け付けていました。持ち物や留意点などもきちんと説明し、ここからサポートが始まるのですね。

### 当日までの★流れ★

- ①サロンの申し込み
- ②学生募集
- ③第一回打ち合わせ
- ④学生話し合い
- ⑤第二回打ち合わせ
- ⑥学生準備
- ⑦リハーサル



### ②学生募集!



参加を希望する学生を募集します。希望した学生は、対象の子どもの年齢を考えて、願いを届けられるように責任をもって取り組みます。

### ③打合せ&準備



初めての話しあい！代表の2人が楽しんでもらいたいという思いで意見を交換し合って遊びの内容を考えていたよ。  
子どもの姿や動きを予想して、時間配分や遊びの内容を考えるのはすごく難しそう。でも2人はなんだか楽しそう！楽しい遊びが思いついたのかな？



# 準備

保育士さんと主体となる学生に聞きました。

## こんな想いをこめて準備します!

インタビューを受けた学生



幼児保育専攻  
小川 莉沙・竹長 正和

仲間と協力して  
やり遂げる喜び  
を感じたい

親子の顔が笑顔に包まれるような遊びを提供しますが、自分達自身も、一緒に楽しめるような関係を大切にしたいです。  
また、戸外の遊びは、危険も多いので、学生同士・学生と保育士の連携をうまくとって、子どもたちの安全に配慮していきたいと思っています。

子育て中の方へ



心も体も開  
放して親子で体を  
動かして遊ぶ

戸外で親子が室内でできないような体を動かして遊ぶ楽しさを味わってほしいです。また、いつもと違う環境で、お弁当を食べる楽しさも味わってほしいです。  
今回は、大学の構内といういつもと違った環境を活かして散歩しますので、わくわく・ドキドキと、心も体も解放的になれる遊びをしたいと思います。

インタビューを受けた保育士



保育士  
長谷川 充さん

親子の姿をよく  
見てみよう!

学生たちへ



せっかく大学にあるセンターなので、失敗を恐れずに、どんどんチャレンジしてほしいです。  
そして、色々な状況(環境・子どもの動き)に応じて対応できる力を付けていってほしいと思います。  
また、わくわく親子遊びサロンでは、保育園や幼稚園の実習ではあまり見られない、親子の関わり合いの様子がよく見られますので、そこをよく見て勉強してほしいです。

